

JAIR Newsletter

No.180 July 2024

日本国際政治学会


<https://jair.or.jp/>

[目次]

巻頭言.....1	理事会便り.....4
前・事務局からのお知らせ.....2	国際学術交流助成採択者報告.....4
新・事務局からのお知らせ.....2	2024年度研究大会プログラム.....6
2024年度研究大会に関するお知らせ.....3	編集後記.....17

理事長挨拶

遠藤貢

6月22日に行われた評議員会および理事会において、2024-2026年期の理事長に選出されました。改めて本学会の歴代理事長のお名前を拝見すると、一アフリカ研究者に過ぎないものが、このような責務を全うできるだろうかとも考えたところですが、可能な限り尽力させていただければと考えております。

今回、理事長職を引き受けるにあたって考えたのは、持続可能な学会運営の必要性と、国際政治学という学問領域の意義を改めて社会に発信する必要性です。

長く理事としても本学会に関わってきましたが、コロナ禍の時期など運営の安定性を重視する必要などもあったことが背景にはあったと思いますが、ここ10年ほどある年齢層の研究者が理事長職に就く傾向が続いてきました。これからは学会運営には新陳代謝も必要と思われるので、できる限りより若い会員に学会運営に積極的に関わっていただくことを目指して参りたいと考えております。

前期よりの継続課題ですが、今期最重要と考えられるのは、2026年に予定されている幕張メッセを会場とした70周年記念大会に向けての準備です。新理事会では、70周年記念大会事業担当の理事を配置し、その方々を中心として変容する国際社会を多角的な視座に立って検討する魅力的な企画を立てていただく予定しております。会員の皆さんからも様々なアイデアなどをお寄せいただければと存じます。

中長期的課題にも引き続き取り組みたいと思います。まず、本学会の国際化です。大矢根元理事長・飯田前理事長のもとで、いくつかのイニシアティブがとられました。たとえば、2021年の研究大会では、本学会の英文ジャーナルの投稿セミナーに加え、外部のジャーナルであるRIPEの投稿セミナーも開催されました。また、2022年、2023年、2024年のISA研究大会では、国際交流委員会の下でのパネル企画がなされ、本学会会員が報告を行いました。また、こうした取り組みの成果ともいえるかと思いますが、IRAPへの本学会員の投稿数が増加傾向にあるとの報告も受けております。とはいえ、本学会の国際化の余地はまだ残されていると思います。70周年の記念大会を今後の国際化の取り組みの一つの機会とする可能性もありそうです。

最後に、これも継続課題ですが、少子化対策です。今後、諸学会は縮小を余儀なくされます。幸い、本学会の会員数は現状においては依然として2000人以上を維持しております。長期的には、会員数の減少は回避できないとも考えられますが、その際、本学会の活動をどのようにしていけばよいかを、より若い会員の皆さんとともに考えていく必要があると考えています。

こうした諸課題を理事会・評議員会だけでなく、会員の皆さんとともに考えていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



前・事務局からのお知らせ

1. 監査の実施

5月初旬、2023年度事業報告書および計算書類に関する監事による監査を、会計事務所の助言に基づいて、書類の郵送にて実施しました。監査の結果、2023年度の事業報告および決算書類は適正であることが確認されました。

2. 2023年度事業報告書・決算書類の承認

6月22日に開催された定時評議員会にて、2023年度の事業報告書および決算書類が承認されました。

3. 2024年度ISAへの参加

サンフランシスコで開催されたISAの2024年度大会にて、パネル“Economic security: perspectives from Japan”を開催しました。

4. 新入会員の承認

6月8日に開催された第12回理事会で入会申込書等が回覧され、計23名の新入会員が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

5. 学生会員に対する大学院生資格の確認書類の提出について

本学会の学生会員については、年会費をお支払いいただく際、大学院生であることを証明する書類（学生証、在学証明書等の写し）の提出をお願いしております。ご提出のほど、お願い申し上げます。

6. 理事会任期の終了

6月22日に開催された定時評議員会をもちまして、2022-2024年期の理事会の任期は終了いたしました。至らない点が多々あったものと存じますが、これまでのご指導、ご鞭撻に心より感謝申し上げます。

2022-24年期理事長 飯田敬輔
2022-24年期事務局主任 池内恵

新・事務局からのお知らせ

一般財団法人 日本国際政治学会 会員各位

新理事会・評議員会発足のお知らせ

2022-2024 年期理事会は、6 月 22 日に開催された定時評議員会をもって任期を終了し、その評議員会で選任された新理事 15 名の構成する新理事会が、2024-2026 年期に業務を執行することになりました（定款 21 条第 1 項）。

同じ評議員会において、新たな監事（任期 2 年）2 名も選出され、理事会による業務執行の監査にあたることになりました。

また、定款 10 条に基づき、新たな評議員（任期 4 年）11 名も選任されました。

評議員：秋山信将 飯田敬輔 石田淳 岩間陽子 遠藤乾 大島美穂 大矢根聡 酒井啓子 佐々木卓也
高原明生 中西寛

監事：楠綾子 山田哲也

また、上記の定時評議員会に続いて、最初の新理事会を開催し、理事長および副理事長、事務局主任（常任理事）を選定するとともに、各理事の職務について決議を行いました（定款 21 条第 2 項）。この決議に基づく新理事会の業務分担は以下の通りです。

理事長：遠藤貢 副理事長：遠藤誠治 事務局主任：湯川拓
会計部主任：森井裕一
企画・研究委員会主任：板橋拓己 同副主任：錦田愛子
編集委員会主任：倉科一希 同副主任：青野利彦
英文ジャーナル編集委員会主任：多湖淳
広報委員会主任：下谷内奈緒 同副主任：佐橋亮
国際交流委員会主任：井上正也
70周年企画委員会主任 葛谷彩 同副主任 末近浩太

新理事会として、先人による研究と学会運営の巨大な蓄積を踏まえ、透明性や公平性をいっそう高め、会員のみなさまの研究活動をさらに活性化できるよう、尽力いたす所存です。みなさまのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2024-2026 年期理事長 遠藤貢
2024-2026 年期事務局主任 湯川拓

2024 年度研究大会に関するお知らせ

2024 年度の研究大会は対面で開催いたします。会員の皆様におかれましては、ぜひ積極的にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。大会の詳細については、今後、学会ホームページおよび会員メーリングリストなどを通じてお知らせいたします。

◆開催日および開催場所

11月15（金）～17日（日）札幌コンベンションセンター
*会場へのアクセス <https://www.sora-scc.jp/access/>

◆懇親会の開催について

大会2日目の共通論題終了後の開催を予定しています。

◆大会2日目について

札幌大会においては、近年の開催方式を踏襲し、大会1日目に分科会を1セッション、2日目に分科会を2セッション開催します。また、今年度は従来形式による懇親会を開催することになりましたので、昼食休憩時間など2日目の日程がやや過密となっております。後日発送の大会プログラムにて、詳細をご確認下さい。

◆大会当日までのスケジュールは概ね以下のようになります。

【8月下旬】

- 「2024年度研究大会のご案内」の郵送と学会 HP 上でのお知らせ・部会および分科会のプログラムと大会の詳細をご案内するとともに、登録申し込みウェブサイトを開通いたします。

【10月上旬】

- 「報告要旨」のアップロードの開始（報告要旨集については、昨今の例に倣い紙媒体では配布せず、ウェブサイトに掲載します）。

【10月下旬】

- 「報告ペーパー」のダウンロード開始

◆大会についての問い合わせ先

札幌大会実行委員会
jair2024sapporo★gmail.com （★を@に置き換えてください。）

充実した大会になりますよう準備を進めて参りますので、会員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願い致します。

2024 年度研究大会実行委員長 中内 政貴

理事会便り

編集委員会からのお知らせ

『国際政治』220号の投稿募集を開始しております。詳細はウェブサイトをご覧ください。

『国際政治』220号「海洋をめぐる国際秩序」(仮)
都留康子会員編集担当
申込締切：2025年1月31日
原稿締切：2025年12月31日

投稿募集要項はこちらから。
<https://jair.or.jp/committee/henshu/10475.html>
原稿を提出する際の執筆要領はこちらから。
<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

なお、独立論文の投稿は随時受け付けています。投稿の申し込み先などは『国際政治』各号の末尾に記載されておりますのでご覧ください。特集号、独立論文ともに、会員の皆様の投稿をお待ちしております。

編集委員会 主任 倉科一希
副主任 青野利彦 jair-edit@jair.or.jp
(☆を@に置き換えてください)

広報委員会からのお知らせ

学会ウェブサイトでは、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、ウェブサイトの「お知らせ投稿フォーム」(<https://jair.or.jp/membership/information/form.html>)をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要がありますので、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム(e-naf)」内に掲載されております。e-nafにログインいただきご確認ください。

その他、ニューズレターやウェブサイトについてお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr@jair.or.jp)にご連絡ください。(☆を@に置き換えてください)

広報委員会主任 下谷内奈緒

国際学術交流助成採択者報告

カレル大学(プラハ)国際カンファレンス参加報告

重松 尚 (日本学術振興会特別研究員/
ヴィータウタス・マグヌス大学
政治科学外交学部提携准教授)

この度、カレル大学(チェコ共和国プラハ)人文学部歴史学科主催の国際カンファレンス“REWRITING THE HISTORY: CHANGING THE READING OF THE PAST”に参加し、口頭発表を行った(2024年6月13日から15日まで)。歴史学科が主催であるものの、対象領域は歴史学だけに限られ

ず、政治学や社会学などを含むさまざまな学術領域からの発表も行われる学際的カンファレンスであった。

報告者は、6月13日に行われたオープンレクチャーにて口頭発表“Changes in the Historiography of the Jews in Lithuania’s Historical Books”を行った。カンファレンスのテーマに最も合致している発表であるなどの事情から、パネルで報告を行った他の研究者とは異なり、特別にオープンレクチャー(基調講演)として発表させていただくこととなった。そのため、他の研究者よりも長時間の発表となった(通常は発表時間が12分、質疑応答が5分程度であったのに対し、オープンレクチャーは発表時間が45分、質疑

応答が 15 分)。このおかげで、他の発表と比べて、より深く討論する機会に恵まれた。なお、発表形式は対面を原則としつつ、ヨーロッパ以外からの発表者などに対してはオンラインでの発表機会も与えられた。現地では、リトアニア、ドイツ、チェコなどから関連する研究を行う研究者らが参加していたため、口頭発表を行ったのちに、研究に関する情報交換を行うことができた。これは、オンラインでの発表では得られない機会であったと感じている。

「歴史の書き換え」をテーマとするカンファレンスにおいて、報告者は、リトアニアにおける政治状況がいかに歴史認識を変容させたのかについて、過去 100 年間にリトアニア国内で最も影響力を有した歴史書の分析を通して検討を行った。報告内容のうち、特に、リトアニアがソ連からの独立回復を果たしたのちに確立した歴史認識が 1930 年代の歴史認識を復活させたものに過ぎず、社会史など 20 世紀後半の新たな潮流がまったく反映されておらず、また民族中心的な歴史認識であったという点や、21 世紀に入ってからの欧州統合の流れがそのような歴史認識を大幅に変容させることとなったという点などについては、特に参加者の関心を集め、その後の質疑応答でも論点となった。

非常に多くの研究者がこのカンファレンスに参加しており、関連するテーマの研究も多かったことから、他の発表者の研究報告から新たな知見を得ることもできた。

IPSA RC 36 and RC 51 合同国際会議に参加して

舛方周一郎（東京外国語大学）

2024 年 5 月 31 日～6 月 1 日、ポルトガル共和国ポルト市（ルシアダ大学ポルト校）において開催された世界政治学会（IPSA）研究部会 RC36（Political Power）と RC51（International Political Economy）の合同国際会議（IPSA RC 36 and RC 51 Joint Interim Conference in Porto, Portugal）に参加し研究報告を行った。共同テーマは Crisis and Power in unsettled time であり、申請者の研究の題目は Renewable Energy, Biofuels and Nuclear: Explaining the energy diplomacy strategies of Emerging powers in Global Energy Crisis で

あった。2 年に 1 度開催される世界大会の間の 1 年に各研究部会が独自に行ってきた今回の国際会議に初めて参加したことで、申請者は 3 点の成果を実感している。

第 1 が、研究課題に対して十分なフィードバックをもらえたことである。一般に国際学会の世界大会は、報告時間もそれに対する討論者のコメントも短く、プログラムが終了するとすぐに散会するものが多い。しかし研究部会の会議は、2 日間の日程の中で 10 名以下の参加者の報告によって構成されていた。そのため、一人ひとりの報告内容は十分な時間をとって検討され、申請者の報告内容に対しても多くの課題を把握することができた。

こうした密なスケジュールは、第 2 の成果である研究者間の人脈形成にもつながった。本会議の主催者である Giulio Gallarotti 教授（Wesleyan University）や Karabekir Akkoyunlu 講師（SOAS）など、報告者の研究課題に直結する複数の大学関係者にお会いすることができ、プログラム以外の時間にも多様な意見交換をすることができた。

その結果、来年度韓国のソウル市で開催される世界政治学会（IPSA）において、共同パネルを企画するための大きな足掛かりとなった。さらに Giulio 教授からは 2028 年の同会議を日本（申請者の所属先）で開催することを打診された。同会議が日本で開催されることは、日本国際政治学会に所属する研究者との交流の機会にもつながるため、その方向で準備する予定である。

第 3 の成果は、具体的な共同研究につながったことである。同会議のために申請者が提出したディスカッションペーパーと当日の報告は企画者・参加者から評価されたことで、そのペーパーは BRICS に関する編著本（Gilio Gallarotti and Guilherme Vinicius Rodrigues Vieira eds.）の 1 章分（BRICS and Energy）になることが決定した。本書は、世界的にみても権威のある出版社として知られる DeGruyter Press から 2026 年に出版される予定である。以上 3 点の成果からも、本会議への出席は非常に実りあるものだったといえる。

こうした機会を実現するために国際学術交流助成を承認してくださった日本国際政治学会の担当理事の皆様には深く感謝申しあげたい。

2024年度研究大会プログラム

※以下のプログラムは暫定版（7月末時点）です。

2024年度研究大会 部会・共通論題プログラム

第1日 11月15日（金）13:00～15:30

午後の部会（13:00～15:30）

部会1 「『9条＝安保体制』の再検討と東アジア」

司会 井上 正也（慶應義塾大学）

報告 濱砂 孝弘（早稲田大学）

「九条＝安保体制」への道——集团的自衛権の政治外交史 1945-1960年」

池宮城 陽子（日本学術振興会）

「9条＝安保体制」の展開と沖縄、1952-1972年」

加藤 博章（関西学院大学）

「9条＝安保体制と自衛隊海外派遣——最小限度とは何だったのか」

討論 松田 康博（東京大学）

池田 慎太郎（関西大学）

部会2 「アメリカ政治・外交への接近法」

司会 伊藤 裕子（亜細亜大学）（討論を兼ねる）

報告 信田 智人（国際大学）

「日米両国における日米関係研究」

佐藤 真千子（静岡県立大学）

「宗教とアメリカ外交政策——研究動向と政策形成の文脈から」

池上 大祐（琉球大学）

「アメリカ太平洋島嶼現代史の現状と課題——グアムを中心として」

討論 遠藤 泰生（関西国際大学）

部会3 「ノーベル平和賞をめぐる国際政治」

司会 田中 浩一郎（慶應義塾大学）

報告 吉武 信彦（高崎経済大学）

「ノーベル平和賞と日本歴代日本人候補をめぐる国際政治、1901-1974年」

竹中 千春（立教大学）

「南アジアとノーベル平和賞の政治的ダイナミクス——ポストコロニアル、グローバルサウス、ジェンダーの視角から」

榎本 珠良（明治学院大学）

「『人道的軍縮』キャンペーンとノーベル平和賞」

討論 戸田 真紀子（京都女子大学）

佐藤 史郎（東京農業大学）

部会4 「国際制度と国内秩序の連関」

司会 石黒 馨（神戸大学）

報告 浜中 慎太郎（アジア経済研究所）

「国内・国際制度の連関：法伝統の視点から——ISDS、MRA、GIsは英米法的か？」

吉本 郁（東京大学）

「民主化、不平等と援助」

市原 麻衣子（一橋大学）

「民主主義国の国際連携——安全保障と価値の連関とその影響」

討論 竹中 治堅（政策研究大学院大学）

神江 沙蘭（関西大学）

午前の部会 (09:30~12:00)

部会 5 「規範と紛争の複雑系」

司会 柄谷 利恵子 (関西大学)

報告 関山 健 (京都大学)

「気候変動を遠因とする紛争と社会規範」

中西 嘉宏 (京都大学)

「ヒエラルキーを転げ落ちる——国際規範とミャンマーにおける『体制移行』の関係について」

大内 勇也 (神戸大学)

「シリア内戦と反不処罰規範の多層的変容」

討論 土佐 弘之 (ノートルダム清心女子大学)

阿部 悠貴 (熊本大学)

部会 6 「歴史問題とは何か——国際政治学・比較政治学・歴史学からの横断的検証」

司会 大矢根 聡 (同志社大学) (討論を兼ねる)

報告 浅野 豊美 (早稲田大学)

「国際和解学の挑戦——国民国家の変容可能性を内包する国際関係学をめざして」

武井 彩佳 (学習院女子大学)

「和解の規範を創り出す——法、政治と文化」

熊谷 奈緒子 (青山学院大学)

「歴史和解における『女性の尊厳』——構成主義的分析」

討論 豊田 哲也 (国際教養大学)

部会 7 「再び国家間戦争の時代へ？」

司会 宮岡 勲 (慶応義塾大学)

報告 千々和 泰明 (防衛研究所)

「国家間戦争終結研究からの示唆——ロシア・ウクライナ戦争と『台湾有事』を念頭に」

佐桑 健太郎 (青山学院大学)

「領土問題の平和的解決を阻むもの」

石田 淳 (東京大学)

「安心供与とは何か——秩序論の交渉論的基盤」

討論 板山 真弓 (国土舘大学)

片桐 梓 (大阪大学)

部会 8 『冷戦』の語り方

司会 鳥潟 優子 (同志社女子大学) (討論を兼ねる)

報告 福田 円 (法政大学)

「中国・台湾からみる『冷戦』」

山本 健 (西南学院大学)

「冷戦史研究の中の『ヨーロッパ冷戦史』」

神田 豊隆 (新潟大学)

「冷戦と社会民主主義——日本社会党の外交論を焦点として」

討論 白鳥 潤一郎 (放送大学)

部会 9 日韓合同部会 “Examining the Transformation of the International Order and Political Landscape through Diverse Approaches and Perspectives” (英語で実施)

Chair:

ENDO Mitsugi (JAIR President, The University of Tokyo)

Speakers:

KAGOTANI Koji (Chuo University), KO Jiyoung (Korea University)*, WU Wen-Chin (Academia Sinica)*

*No-presenting Co-author

“When Do Diplomatic Protests Succeed? Political Information and No Rally Effect”

LEE Geunwook (Sogang University)

“ROK’s Military Posture: Seoul’s Strategy, Buildup, and Implications for Security in East Asia”

JEONG Sangmi (Korean National Diplomatic Academy)

“Security Threats and South Koreans’ Perception of Japan: Assessing Public Opinion on ROK-Japan Relations and the ROK-U.S.-Japan Security Cooperation (2018~2021)”

Discussant:

LIM Jaehwan (Aoyama Gakuin University)

KIM Sunil (Kyung Hee University)

CHO Youngho (Sogang University)

分科会セッション B (12:45~14:00) 別掲

分科会セッション C (14:15~15:30) 別掲

総会 (15:30~16:00)

【共通論題】「国際政治学と政策形成——EBPMの可能性と限界」(16:00~18:50)

司会 古城 佳子 (青山学院大学)

報告 多湖 淳 (早稲田大学)

「EBPMと国際政治学——安全保障分野」

宇治 梓紗 (京都大学)

「環境政策とEBPM」

飯田 敬輔 (東京大学)

「国際関係理論から見たEBPM」

討論 山田 敦 (一橋大学)

遠藤 乾 (東京大学)

懇親会 (19:05~20:35)

第3日 11月17日(日) 14:00~16:30

分科会セッション D (09:30~11:00) 別掲

分科会セッション E (11:15~12:55) 別掲

部会 10 「グローバルな食料安全保障の課題」

司会 毛利 勝彦 (国際基督教大学)

報告 高橋 敏哉 (松蔭大学)

「経済安全保障と食料安全保障——その概念と体系」

市川 顕 (東洋大学)

「ウクライナ戦争と食糧安全保障——ポーランドの視点から」

鍋島 孝子 (北海道大学)

「アフリカにおける食糧安全保障——国際政治から顧みられなかった農民の人権」

討論 上村 雄彦 (横浜市立大学)

渡邊 智明 (福岡工業大学)

部会 11 ガザをめぐる国際政治【市民講座をかねる】

司会 池田 明史 (東洋英和女学院大学)

報告 江崎 智絵 (防衛大学校)

「ガザの統治と中東和平——ハマースとの関係の観点から」

三牧 聖子 (同志社大学)
「ガザ危機とアメリカ国際主義の行方」

前川 一郎 (立命館大学)
「帝国主義忘却の現代史——ガザをめぐる国際政治があらわすもの」

討論 高原 明生 (東京女子大学)
辻田 俊哉 (大阪大学)

部会 12 「非承認国家問題再論——パレスチナ、ドンバス、東ティモール」

司会 富樫 耕介 (同志社大学)
報告 錦田 愛子 (慶應義塾大学)
「実態なき承認国家としてのパレスチナ——政治戦略としての国家承認」
松里 公孝 (東京大学)
「主権国家の物心崇拜と分離紛争——旧社会主義圏の経験」
滝澤 美佐子 (桜美林大学)
「東ティモール国家独立における国際法・国際機構の関与とその課題」

討論 遠藤 貢 (東京大学)
立花 優 (北海道大学)

部会 13 「不正義と補償・賠償の国際政治」

司会 藤重 博美 (青山学院大学)
報告 飯嶋 佑美 (日本国際問題研究所)
「気候変動の悪影響に伴う損失と損害を巡る国際政治」
川喜田 敦子 (東京大学)
「第二次世界大戦後のドイツの戦争賠償と被害者補償」
鶴田 綾 (中京大学)
「ヨーロッパの植民地責任とアフリカ——ベルギー・コンゴ関係を中心に」

討論 網谷 龍介 (津田塾大学)
望月 康恵 (関西学院大学)

部会 14 「対外関係の変動と日本のインテリジェンス体制」

司会 岩間 陽子 (政策研究大学院大学)
報告 宮杉 浩泰 (明治大学)
「戦前期日本の情報活動と対外政策の相互作用」
小島 吉之 (帝塚山大学)
「戦後日本のインテリジェンスと国家理性」
小林 良樹 (明治大学)
「2000年代以降の日本のインテリジェンス機構の変容とその要因」

討論 森口 由香 (京都大学)
関 誠 (帝塚山大学)

部会 15 「見田宗介／真木悠介と国際政治学——日本発の〈学知〉からのグローバルな国際関係研究へ」

司会 安高 啓朗 (立命館大学)
報告 酒井 啓子 (千葉大学)
「地域研究/グローバル関係学と見田宗介/真木悠介」
前田 幸男 (創価大学)
「大地から逆照射された国際政治学——通奏低音としての見田宗介／真木悠介」
芝崎 厚士 (駒澤大学)
「自我・時空・世界 グローバル関係研究と見田宗介/真木悠介」

討論 向山 直佑 (東京大学)
浅香 幸枝 (南山大学)

分科会プログラム

◆11月15日(金)

分科会セッションA (15:45~17:45)

(※A-1は15:45~17:15に実施)

A-1 日本外交史I/東アジア国際政治史合同分科会

責任者 吉田 真吾(近畿大学)
福田 円(法政大学)

テーマ 近現代中国における治外法権とその撤廃

司会 川島 真(東京大学)

報告 塚本 英樹

「中国分割と日本人の大陸進出——租借地における領事裁判権問題」

景 旻(東京大学)

「中華人民共和国成立前後の外国人『特権』の変化——地方公文書に基づく再考察」

討論 川島 真(東京大学)

奈良岡 聡智(京都大学)

A-2 政策決定分科会I

責任者 三浦 秀之(杏林大学)

テーマ 経済安全保障と伝統的安全保障の相克

司会 三浦 秀之(杏林大学)

報告 杉之原 真子(フェリス女学院大学)

「日本の対内直接投資規制についての政治学的分析」

井戸本 雄児(南カリフォルニア大学)

“China’s Peaceful Rise, After All? The Threat of Rising Powers Reconsidered”

大崎 祐馬(同志社大学)

「国際規範化する『経済安全保障』概念における制度化と履行」

討論 齊藤 孝祐(上智大学)

三浦 秀之(杏林大学)

A-3 国際交流分科会

責任者 井上 浩子(大東文化大学)

テーマ 自由論題

司会 井上 浩子(大東文化大学)

報告 堀内 めぐみ(元桜美林大学)

「『文化国家』を問い直す——『文化』を創るとは何を意味するのか」

久永 優吾(上智大学)

「非民主主義国家の『司法外交』——トルコ憲法裁判所を事例として」

崔 仁赫(一橋大学)

「日本の国会議員の外国に関する発言感情に与える要因分析——政治テキストを対象とした実証分析」

討論 川村 陶子(成蹊大学)

浜中 新吾(龍谷大学)

A-4 院生・若手研究分科会I

責任者 富田 健司(九州大学)

テーマ 冷戦期における国際関係の変容——二国間関係と野党の目線から

司会 竹野 貴子(南山大学)

報告 西村 巧(関西大学)

「冷戦期米ソにおける信頼醸成措置の再考——レーガン政権を事例として」

成 炫暎(一橋大学)

「戦後日本における『自主防衛』論——70年安保に向けた民社党の防衛構想を中心に」

本藤 優典(京都大学)

「1970年代における日本の対オーストラリア資源外交」

討論 村田 晃嗣 (同志社大学)
若月 秀和 (北海学園大学)
永野 隆行 (獨協大学)

◆11月16日(土)

分科会セッションB (12:45~14:00)

B-1 日本外交史分科会II

責任者 吉田 真吾 (近畿大学)

テーマ 近代日本の会議外交と外務省

司会 吉田 真吾 (近畿大学)

報告 阿曾沼 春菜 (広島修道大学)

「第二回ハーグ万国平和会議(1907)と日本外交」

種稲 秀司 (國學院大學)

「戦前期日本外務省における在外幹部のキャリアパス——基本パターンとその運用に関する考察」

討論 佐々木 雄一 (明治学院大学)

B-2 東アジア国際政治史分科会

責任者 福田 円 (法政大学)

テーマ 現代中国外交と統一戦線工作

司会 三宅 康之 (関西学院大学)

報告 邵 天澤 (京都大学)

「第二中間地帯論の成果と蹉跌——中国の対イタリアと対西ドイツ外交 1964」

丁 天聖 (東京大学)

「中国『愛国統一戦線』の形成と対台湾政策」

討論 三宅 康之 (関西学院大学)

杉浦 康之 (防衛省防衛研究所)

B-3 東アジア/東南アジア合同分科会

責任者 土屋 貴裕 (京都先端科学大学)
井原 伸浩 (名古屋大学)

テーマ 自由論題

司会 井原 伸浩 (名古屋大学)

報告 阿部 和美 (二松学舎大学)

「ジョコ・ウィドド政権下のパプア地域」

永田 伸吾 (金沢大学)

「北東アジアにおける大国間競争の展開——現状変更国による『探り (probing)』の常態化への日本の対応を中心に」

討論 首藤 もと子 (筑波大学)

土屋 貴裕 (京都先端科学大学)

B-4 アフリカ分科会

責任者 荒木 圭子 (東海大学)

テーマ アフリカ外交の諸相

司会 荒木 圭子 (東海大学)

報告 佐藤 裕視 (麗澤大学)

「タンガニーカ・アフリカ民族同盟 (TANU) による初期外交と国連——政治組織収斂のメカニズム」

細井 友裕 (東京大学) ・*高橋 知子 (京都大学) (*非登壇共著者)

「アフリカのサミット外交——日本と中国の経験を整理する」

討論 井上 実佳 (東洋学園大学)

武内 進一 (東京外国語大学)

B-5 安全保障分科会 I

責任者 栗田 真広 (防衛研究所)

- テーマ 核をめぐる日本の言説
司会 栗田 真広 (防衛研究所)
報告 梅原 季哉 (広島市立大学)
「核使用に関する日本における規範受容——言説分析を軸として」
王 凱標 (広島大学)
「脅威認識から見る核秩序の変遷——日本の非核政策と核不拡散体制」
討論 向 和歌奈 (亜細亜大学)

B-6 国連研究分科会

責任者 藤重 博美 (青山学院大学)

- テーマ 自由論題
司会 山本 慎一 (香川大学)
報告 篠田 英朗 (東京外国語大学)
「国際社会の構造転換と岐路に立たされた国連——縮小する PKO と財政難の援助活動」
武藤 亜子 (JICA 緒方研究所)
「人間の安全保障とグローバル・ヘルス——コロナ後の国連の役割を中心に」
討論 山本 慎一 (香川大学)
詫摩 佳代 (慶應義塾大学)

B-7 平和研究分科会 I

責任者 古澤 嘉朗 (広島市立大学)

- テーマ 和平合意と反政府勢力による人道侵害
司会 古澤 嘉朗 (広島市立大学)
報告 田中 聡 (立命館大学)
「権力分有による平和維持とクライエンテリズム——デイトン合意後のボスニアを事例に」
楊 允晶 (早稲田大学)
“Partner in Crime? Examining Rebel Groups’ Humanitarian Violations and Alliance”
討論 杉浦 功一 (文教大学)
杉木 明子 (慶應義塾大学)

分科会セッション C (14:15~15:30)

C-1 日本外交史分科会 III

責任者 吉田 真吾 (近畿大学)

- テーマ 再考 戦後日華・日韓関係
司会 中島 琢磨 (九州大学)
報告 横山 雄大 (東京大学)
「1950年代後半における日本社会党と中華民国の接近」
関 智焄 (立命館大学)
「日本の戦後民主主義における日韓国交正常化——「構成主義」の概念からのアプローチ」
討論 添谷 芳秀 (慶應義塾大学)

C-2 アメリカ政治外交分科会 I

責任者 島村 直幸 (杏林大学)

- テーマ <合評会>青野利彦『冷戦史(上下)』(中公新書、2023年)
司会 水本 義彦 (獨協大学)
報告 著者: 青野 利彦 (一橋大学)
討論 評者: 佐々木 卓也 (立教大学)
評者: 高橋 和宏 (法政大学)

C-3 ロシア・東欧分科会 I

責任者 加藤 美保子 (広島市立大学)

- テーマ 戦時下の動員と愛国教育
司会 浜 由樹子 (静岡県立大学)
報告 西山 美久 (東京大学)
「ロシア・ウクライナ戦争下におけるプーチン政権の愛国教育」
岡田 美保 (防衛大学校)
「戦争の長期化と兵員補充の諸問題」
討論 立石 洋子 (同志社大学)
油本 真理 (法政大学)

C-4 ラテンアメリカ分科会

責任者 浦部 浩之 (獨協大学)

- テーマ カリブに働く地域間関係のダイナミズム
司会 馬場 香織 (北海道大学)
報告 岸川 毅 (上智大学)
「中台米の外交競争とドミニカ共和国の選択」
森口 舞 (名城大学)
「ジャマイカのブラック・パワー運動における汎アフリカ主義の受容」
討論 片岡 真輝 (東京外国語大学)
松本 八重子 (亜細亜大学・上智大学)

C-5 安全保障分科会 II

責任者 栗田 真広 (防衛研究所)

- テーマ 軍備管理・軍縮・不拡散の諸相
司会 福田 毅 (国立国会図書館)
報告 一政 祐行 (防衛研究所)
「2国間軍備管理条約の「生と死」——軍備管理条約の終焉から新たな軍備管理への架橋を巡る一考察」
田中 極子 (東洋英和女学院大学)
「バイオテクノロジーの安全保障上の位置づけ」
討論 福田 毅 (国立国会図書館)
有江 浩一 (防衛研究所)

C-6 政策決定分科会 II

責任者 三浦 秀之 (杏林大学)

- テーマ 国際政治と国内政治の連繋
司会 細谷 雄一 (慶應義塾大学)
報告 Emily S. Chen (東京大学)
“Beliefs, Identities and Pragmatism: Why Japanese Policymakers Are Selling Liberal Democracy in the 21st Century”
Shin Do Hyung (京都大学)
「日本と韓国の労働移民政策における国内政治アクターの連合体の役割」
討論 細谷 雄一 (慶應義塾大学)
手塚 沙織 (南山大学)

C-7 ジェンダー分科会

責任者 大野 聖良 (お茶の水女子大学)

- テーマ フェミニズム/ジェンダー理論から捉える国際政治の現在
司会 大野 聖良 (お茶の水女子大学)
報告 本山 央子 (お茶の水女子大学)
「帝国主義とフェミニズムの新しい関係? 価値の外交とジェンダー主流化」
土野 瑞穂 (明星大学)
「ジェンダーの視点からみた近年の紛争の様相——CRSV、CBOW、女性兵士の存在から」
討論 和田 賢治 (武蔵野学院大学)

◆11月17日(日)
分科会セッションD(9:30~11:00)

D-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会I

責任者 鳥潟 優子(同志社女子大学)

テーマ ヨーロッパ国際政治におけるイニシアティブ掌握の試み?

司会 小川 浩之(東京大学)

報告 佐竹 壮一郎(白鷗大学)

「デモクラシーウォッシング?—EUにおける政治参加促進をめぐる」

狐塚 祐矢(東京大学)

「デタント期におけるドイツ社会民主党の『欧州戦略』—欧州左派をめぐる政党外交に着目して」

討論 細井 優子(拓殖大学)

葛谷 彩(明治学院大学)

D-2 ロシア・東欧分科会II

責任者 加藤 美保子(広島市立大学)

テーマ アジアのロシア、ヨーロッパのロシア

司会 加藤 美保子(広島市立大学)

報告 左近 幸村(九州大学)

「ウラジオストクの『自由港』は必然か—歴史的比較の試み」

長島 徹(外務省)

「対ウクライナ戦争におけるロシアの国籍政策の変容」

討論 堀内 賢志(静岡県立大学)

松崎 英也(津田塾大学)

D-3 国際統合分科会

責任者 東野 篤子(筑波大学)

テーマ EUにおける中・東欧諸国およびトルコ

司会 東野 篤子(筑波大学)

報告 仙石 学(北海道大学)

「欧州議会選挙と東欧政治—ヴィシエグラード諸国を中心に」

今井 宏平(アジア経済研究所)

「『永続的』加盟交渉国トルコにおける国民のEUに対する期待と不満—2023年実施の世論調査の結果から」

討論 石川 雄介(地経学研究所)

中井 遼(東京大学)

D-4 国際政治経済I／トランスナショナル合同分科会

責任者 三浦 聡(名古屋大学)

細田 晴子(日本大学)

テーマ グローバル・ガバナンスの自省作用による民主的変革

司会 半澤 朝彦(明治学院大学)

報告 西谷 真規子(神戸大学)

「自省的なグローバル・ガバナンスの有効性と正統性」

赤星 聖(神戸大学)

“Transforming humanitarian governance from below? From the perspective of reflexive governance”

西村 もも子(東京女子大学)

「知的財産権の保護をめぐるグローバル・ガバナンス」

討論 勝間田 弘(東北大学)

高橋 若菜(宇都宮大学)

D-5 環境分科会

責任者 中山 賢司 (創価大学)

テーマ 気候変動課題の新たなフロンティア——安全保障戦略とサステナブル投資

司会 渡邊 理絵 (青山学院大学)

報告 小尾 美千代 (南山大学)

「アメリカ国防総省による脱炭素化の取り組みと安全保障戦略としての気候変動対策」

御代田 有希 (東京大学)

「低炭素経済への移行におけるサステナブル投資の進展と影響」

討論 太田 宏 (早稲田大学)

蓮井 誠一郎 (茨城大学)

D-6 院生・若手研究分科会Ⅱ

責任者 富田 健司 (九州大学)

テーマ 現代の国際関係における経済戦略と安全保障——貿易、技術、資源を巡る国家戦略

司会 鈴木 一人 (東京大学)

報告 周 放 (早稲田大学)

「危機下の自由主義的国際秩序の進化——日米貿易摩擦と米中貿易戦争の比較分析」

佐久間 大介 (東海大学)

「戦略物資がもたらす国家間関係への影響力——半導体の事例を中心に」

劉 雅静 (慶應義塾大学)

「中東地域情勢に基づく日本のエネルギー安全保障政策の変容——資源外交を中心に」

討論 松村 博行 (岡山理科大学)

鈴木 一人 (東京大学)

小林 周 (日本エネルギー経済研究所)

◆11月17日(日)

分科会セッション E (11:15~12:55)

E-1 欧州国際政治史・欧州研究Ⅱ／日本外交史Ⅳ合同分科会

責任者 鳥潟 優子 (同志社女子大学)

吉田 真吾 (近畿大学)

テーマ 1970年代の日米欧三極国際秩序の模索と日欧関係

司会 黒田 友哉 (専修大学)

報告 鈴木 宏尚 (静岡大学)

「G5の誕生と日本の通貨外交、1971-1973——日米欧三極国際秩序の観点から」

武田 悠 (広島市立大学)

「カナダのウラン禁輸と日米欧関係、1976-1978」

能勢 和宏 (立命館大学)

「GATT東京ラウンドにおける日 EC 関係、1973-1979——欧州委員会の対日認識をてがかりに」

討論 楠 綾子 (日本国際文化研究センター)

山口 育人 (奈良大学)

E-2 アメリカ政治外交分科会Ⅱ

責任者 島村 直幸 (杏林大学)

テーマ 対外政策決定の理論と現実

司会 佐藤 丙午 (拓殖大学)

報告 溜 和敏 (中京大学)

「なぜアメリカはインドに譲歩したのか——印米原子力協力協定(2008年)交渉の検討」

Christopher S. Kim (一橋大学)

“Liberty Beyond Borders: Mobilization Factor in Great Power Military Interventions”

討論 溝口 聡 (関西外国語大学)

草野 大希 (埼玉大学)

E-3 中東分科会

責任者 千葉 悠志 (京都産業大学)

- テーマ ガザ戦争をめぐる国際仲介交渉
司会 岩坂 将充 (北海学園大学)
報告 山本 健介 (静岡県立大学)
「ガザ戦争はなぜ長期化したのか——イスラエルとハマースの停戦交渉をめぐる政治」
堀抜 功二 (日本エネルギー経済研究所)
「ガザ戦争におけるカタールの仲介外交——『非中立的』仲介の分析」
横田 貴之 (明治大学)
「ガザ戦争におけるエジプトの仲介外交とその内政的要因」
討論 前嶋 和弘 (上智大学)

E-4 理論と方法分科会

責任者 久保田 徳仁 (防衛大学校)

- テーマ 国際関係の理論と検証
司会 久保田 徳仁 (防衛大学校)
報告 小浜 祥子 (北海道大学)
「外遊の効果に関する実験的検証——内政と外交は両立できるか」
柴田 佳祐 (広島大学)
「同盟の分断戦略理論の再検討——『探り』を導入した理論の構築と検証」
渡邊 涼一 (筑波大学)
「ブザン流英国学派の功罪——一次的制度概念と制度論的英国学派の批判的検討」
討論 篠本 創 (早稲田大学)
石川 卓 (防衛大学校)
大中 真 (桜美林大学)

E-5 国際政治経済分科会 II

責任者 三浦 聡 (名古屋大学)

- テーマ 山本吉宣『言説の国際政治学——理論、歴史と「心の地政学」』をめぐって (ラウンドテーブル方式)
司会 佐橋 亮 (東京大学)
報告 足立 研幾 (立命館大学)
「国際政治理論の観点から」
江藤 名保子 (学習院大学)
「中国外交論の観点から」
金子 将史 (政策シンクタンク PHP 総研)
「政策論の観点から」
川名 晋史 (東京工業大学)
「日本外交論の観点から」

E-6 平和研究分科会 II

責任者 古澤 嘉朗 (広島市立大学)

- テーマ 東南アジアの紛争解決における伝統的制度と近代的制度の折衷と適応
司会 二村 まどか (法政大学)
報告 上杉 勇司 (早稲田大学)
「平和構築のハイブリッド論における『伝統』と『慣習』の再評価」
宮澤 尚里 (早稲田大学)
「資源管理における伝統的組織と制度の役割——インドネシア・バリ州の事例から」
堀江 正伸 (青山学院大学)
「国境を跨ぐ社会における慣習法の平和構築への適用について——西・東ティモール国境付近に住む人々を事例に」
香川 めぐみ (早稲田大学)
“Gradational Hybridity in Dispute Resolution: A Case Study of Customary, Islamic and Modern Mechanisms in the Bangsamoro, the Philippines”
討論 二村 まどか (法政大学)
クロス 京子 (京都産業大学)

■編集後記

旧広報委員会として最後のニューズレターとなります。副主任であった前期から、4年間にわたってお力添え頂いたみなさまに、御礼申し上げます。会員の方々の円滑な情報交換に、少しでもお役に立ちましたら幸いです。(IK)

今回で広報委員は最後になる。学会理事の任期も終えたが、たまに理事会とはどんなところか聞かれることがある。一概にいうのは難しいが、侃々諤々というよりは割合、各委員の報告が淡々と進む教授会に近い場と言えればイメージは伝わるだろうか。(HW)

研究大会に関する最新の情報は随時学会ウェブサイトに掲載いたします。また、講演会・研究会の開

催情報や、教員や助成金の公募情報の掲載を続けております。会員の皆様からのお知らせの投稿も受け付けておりますので、皆様の活用をお願い申し上げます。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.180
(2024年7月31日発行)

発行人 遠藤 貢
編集人 倉科 一希・和田 洋典・小林 哲

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-29-1
一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究
センター2階 客員教官研究室3
日本国際政治学会 一橋事務所気付
倉科 一希 jair-pr@jair.or.jp